

令和5年度 明正小学校 自己評価報告書

学校（園）名：中央区立明正小学校 所在地：中央区新川2-13-4

校（園）長名：永木 一郎

児童数 388名 学級数：通常級14 通級言語：2 通級難聴：1

教員数 30名 職員数3名

1 重点目標の達成状況及び取組状況

※各項目において、 達成している（十分達成している＋達成している）
改善を要する（改善を要する＋緊急に改善を要する）
わからない …の3項目について回答の割合を示す。

重点目標1 「学ぶ楽しさの共有」

① 児童は授業の内容を理解し、漢字や計算力などの基礎・基本を身に付けることができたか。

・達成している（95.7%） ・改善を要する（0%） ・わからない（4.3%）

② 児童は学習することの楽しさを感じながら主体的に取り組んでいたか。

・達成している（95.6%） ・改善を要する（0%） ・わからない（4.4%）

重点目標2 「想像力・創造性の育成」

① 児童は様々な集団活動に自主的に取り組んでいたか。

・達成している（86.9%） ・改善を要する（13.1%） ・わからない（0%）

② 児童は状況に応じたあいさつをしていたか。

・達成している（43.4%） ・改善を要する（52.2%） ・わからない（4.4%）

③ 児童は友達の良さを見つけたり、思いやりのある行動をとったりしていたか。

・達成している（78.2%） ・改善を要する（21.3%） ・わからない（0%）

重点目標3 「健康な体の育成」

① 児童は、体育朝会やなわとび大会・マラソン大会等の取組を通して、運動する楽しさを味わっていたか。

・達成している（100%） ・改善を要する（0%） ・わからない（0%）

② 児童は、手洗い・うがいなどの健康を維持する活動や食育の授業を通して、心身の育成や健康について意識を高めていたか。

・達成している（78.3%） ・改善を要する（21.7%） ・わからない（0%）

上記重点目標の1と3については概ね満足できる達成状況であるが、2の②については、達成している割合が50%以下である。昨年度より更に低下していることから、教員側はまだまだ児童にもっと挨拶してほしいという願いをもちつつ、声かけ、励ましなどの取組を行っているところである。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

学習活動、道徳教育、生活指導等学校の教育活動全般について105項目に亘り評価を試みた。ほとんどの項目で『達成している』回答が90%の評価をしている。一方改善を要するという回答が比較的多かったのが、「児童会、委員会活動において学校生活の充実と向上を図る活動が行われているか」で17.4%。「児童間、児童と教師間により人間関係を築くための努力がなされているか」で17.4%。また「全教職員が目標を理解し、協力し合って指導に当たっているか」で21.7%であった。

児童の主体性を引き出す児童会、委員会活動については、高学年児童への指導や場の設定などの工夫により、今後活性化を図っていく必要がある。児童、教師の人間関係づくりや教職員の協力については、決して本校の教職員に協力関係が希薄というわけではない。若手教諭等において自分の教育技量にまだ十分な自信がもてなかったり、個々の教員間の個性差によるものだったりすることが考えられる。教師一人一人の良さが引き出された上で、相互の信頼関係を強めていくよう、努めていく。

3 今後の改善方策

重点目標の一つである「あいさつ」については、児童アンケートや保護者アンケートでは、十分達成していると評価されている。教員側との意識の違いが明確な項目である。している側と受け止める側との認識の違い、という面も見られる。これまでも児童会活動などを通して取り組んできたが、様々な工夫と取組でより向上させていくことで、教員側でも達成感が高められるよう努力していく。

教師による児童理解を更に深めていくことで、児童個々の特性を踏まえ全体として互いによりよい人間関係を築くとともに、児童間、教職員間にもその輪を広げていくことで、互いに理解し合い、協力し合える学校を築いていく努力を続けていく。